

令和 2 年 6 月の解説（週間天気予報）

【6 月の天候状況】

上旬は、北日本・東日本と西日本日本海側では、高気圧に覆われて晴れる日が多くありました。このため、降水量は東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、日照時間は、北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多くなりました。北日本太平洋側の日照時間は平年比 154%で、1961 年の統計開始以来 6 月上旬として 1978 年と並び最も多くなりました。その一方で、低気圧や前線が沖縄・奄美から西日本の南岸に停滞したため、沖縄・奄美と九州南部では活発な梅雨前線の影響を受けた時期があり、8 日には沖縄県で浸水害が発生するなど、大雨となった所がありました。このため、沖縄・奄美の降水量はかなり多く、降水量平年比は 277%で 1961 年の統計開始以来 6 月上旬として 1 位の多雨となりました。気温は、日本の南海上で太平洋高気圧が強く、中国東北区からオホーツク海南部付近を低気圧が通過しやすかったため、日本付近には暖かい空気が入りやすかったことや、北日本・東日本・西日本では晴れて強い日射の影響を受けた日もあり、全国的にかなり高くなりました。特に、東日本の平均気温は平年差+2.8℃で、1961 年の統計開始以来 6 月上旬として最も高くなりました。なお、10 日ごろには中国地方、近畿地方、東海地方で梅雨入りしたとみられます(速報値)。

中旬は、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くありました。一方、梅雨前線は本州付近に停滞しやすく、また、沿海州から北海道付近を低気圧が通過しやすかったため、北日本・東日本・西日本では曇りや雨の日が多く、大雨となった所もありました。このため、降水量は、沖縄・奄美ではかなり少なくなりましたが、東日本・西日本ではかなり多く、西日本日本海側では平年比 329%で 1961 年の統計開始以来 6 月中旬として 1 位の多雨となりました。また、日照時間は西日本太平洋側でかなり少なくなりましたが、沖縄・奄美ではかなり多くなりました。太平洋高気圧の縁を回って暖かい空気が日本付近に入りやすかったことから、気温は全国的にかなり高く、特に北日本では期間のはじめに太平洋側を中心に晴れて強い日射の影響も受けたこともあって、平均気温は平年差+2.5℃で 1961 年の統計開始以来 6 月中旬として 2010 年などと並び最も高くなりました。なお、12 日ごろには沖縄地方で梅雨明けしたとみられる(速報値)ほか、11 日ごろには九州北部地方、関東甲信地方、北陸地方、東北南部で、14 日ごろには東北北部で梅雨入りしたとみられます(速報値)。

下旬は、太平洋高気圧が日本の南海上で西へ張り出し、オホーツク海でも高気圧が明瞭でした。梅雨前線は期間のはじめは奄美地方付近に、その後は本州南岸付近に停滞しやすくなっていました。太平洋高気圧の縁を回って湿った空気が入り、梅雨前線の活動が活発となって 25 日には長崎県で土砂災害が発生するなど、大雨となった所もありました。また、北日本では北からの湿った空気や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くありました。このため、降水量は北日本と東日本太平洋側、沖縄・奄美で多くなりました。日照時間は、北日本と沖縄・奄美でかなり少なくなりました。また、北日本太平洋側の日照時間は、平年比 43%で 1961 年の統計開始以来 6 月下旬として 1 位の寡照となりました。一方、東日本・西日本日本海側では前線や湿った空気の影響を受けにくく晴れた時期があったため、降水量は東日本日本海側で少なく、日照時間は東日本・西日本日本海側かなり多くなりました。気温は、太平洋高気圧の縁を回って暖かい空気の入りがやすかった東日本・西日本と沖縄・奄美では高くなりましたが、北からの冷たい空気の影響を受けた日もあった北日本では平年並となりました。

【6 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値^(注)よりも 7 ポイント高い 72%でした。地方別の適中率では、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.4℃小さい 2.3℃で、中国地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 1.5℃で、北海道、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報の利用にあたって】

8月は年間を通して最も気温が高く、真夏日(日最高気温が30℃以上の日)が最も多く、猛暑日(日最高気温が35℃以上の日)となることもあります。向こう一週間で最高気温が概ね35℃以上となることが予想される場合には高温に関する気象情報が発表され、翌日または当日の最高気温が概ね35℃以上になることが予想される場合には高温注意情報が発表されます。これらの気象情報とあわせ、週間天気予報に記載されている向こう一週間の日々の最高気温予報も参照し、熱中症予防など健康管理にご活用ください。